

主な論点（案）

1. 現状と課題

- 生成 AI、エージェント AI の普及などが、事務系職種などの労働力需給に大きな影響を及ぼす可能性が指摘されている。そうした中、AI 等によって代替されにくく、今後とも根強い労働需要が見込まれるエッセンシャルワーカー職種への労働移動の重要性が指摘されている一方で、これらの職種については、従前より、処遇の低さなどの課題も指摘されている。

また、これらの業職種は、共通して、人手不足の課題も抱えている。

（資料4：5～8ページ）

- 当該業職種への円滑な労働移動を促すには、処遇向上やその前提となる関連産業分野の労働生産性の向上が不可欠である。

生産性向上に向けた取組については、今後とも、関係省庁において、設備投資、経営改善、人材戦略などの支援策の更なる拡充などが論じられるべきではあるが、既に関連する助成金や支援機関等も多く存在していることを踏まえれば、本検討会では、そうした支援策を、横串で分かりやすく整理し直すこととしてはどうか。

併せて、人手不足等に悩むこれらの業種の中小企業等に対して、ハローワーク等の労働関係機関における、伴走支援のあり方について検討する必要もあるのではないか。

（資料4：2～4ページ、26～29ページ）

- また、日本成長戦略会議労働市場改革分科会とりまとめ（2026年6月2日）では、いわゆる「アドバンスト・エッセンシャルワーカー」の育成について、更なる取組を進めていくべきと記載されているが、現時点では、「アドバンスト・エッセンシャルワーカー」の概念などは十分に整理されておらず、具体的な人材育成策のポイントも明らかにはなっていない。

（資料3：4ページ）

- このため、本研究会では、以下の検討課題に沿って整理・検討を行っていくこととしてはどうか。

- （1）エッセンシャルワーカー業職種の生産性向上に関する支援施策・相談機関や好事例の整理・分析
- （2）支援現場で活用可能な事例集や支援ツールのあり方の検討
- （3）関係機関等との連携のあり方等の整理及び労働関係機関として対応可能なコミットのあり方の検討
- （4）アドバンスト・エッセンシャルワーカー（AEW）の概念整理や育成・確保に向けた方策の検討

2. 検討課題（案）

（１）エッセンシャルワーカー業職種の生産性向上に関する支援施策・相談機関や好事例の整理・分析

○ まずは、業所管省庁担当部局との連携により、エッセンシャルワーカー業職種の生産性向上に関する支援施策や、相談機関、好事例、既存ガイドライン、リーフレット等の収集に努めることとしてはどうか。

○ その上で、各企業における生産性向上に向けた取組を考える場合には、一定の類型化に基づいて、整理を行うことが効率的と考えられる。

この際、支援施策の整理に当たっては、例えば、

- ① 省力化投資・設備導入（ＡＩ、ＩＣＴなどのデジタル技術の導入を含む）、
- ② 経営改善関係（業務プロセスの見直し、業務改善、付加価値向上等）、
- ③ 人材戦略（人材育成、賃上げ、人材確保、定着等）

などといった類型化が考えられるのではないか。

（参考資料：21～30 ページ、32～42 ページ）

（２）支援現場で活用可能な事例集や支援ツールのあり方の検討

○ 本検討会では、エッセンシャルワーカー業職種の生産性向上に向けて、中小企業等の経営者や、各支援機関等が事業者支援を行う際に活用できるような、

- ① 生産性向上に向けた取組等に係る分かりやすい事例集

→ 忙しい事業主が手に取れるレベルでの薄くて分かりやすいものと、関心を持った際に読める詳細版など

- ② 各種支援施策等やリファーマ等を整理した分かりやすい支援ツール（リーフレット等）

→ 忙しい事業主が手に取れるレベルでの薄くて分かりやすいものと、支援機関の担当者用の詳細版など

を作成していくこととしてはどうか。

（資料３：３、４ ページ）

○ 事例集や支援ツールを作成した際には、業所管関係省庁とも連携の上、その普及に努めていくことが考えられるのではないか。

（３）関係機関等との連携のあり方等の整理及び労働関係機関として対応可能なコミットのあり方の検討

- ① 関係支援機関等の洗い出しと役割の整理

・ 企業による生産性向上の取組を支援に当たっては、どのような関係支援機関が考えられるかを洗い出し、その役割等を整理することとしてはどうか。

(参考資料：3～11 ページ、13～19 ページ)

- ・ また、関連する支援機関等とどのようなリファーマ等を行えば、効果的な支援につながるかについて、関係省庁とも連携の上、整理していくこととしてはどうか。
- ・ この際、事業主支援を行う労働関係機関として一般に考えられるハローワークや働き方改革推進支援センター等については、特に、特出ししてリファーマ先等を整理していくこととしてはどうか。

② ハローワーク

- ・ ハローワークには、特に、住民生活や産業活動を支える企業、とりわけ人材の確保に悩む地域の中小企業にとって、人材確保や職場定着のための助言・情報提供を行う身近な存在であることが期待される。
- ・ 一方で、人手不足であるにも関わらず、ハローワークにおける求人数や充足数は低下傾向であり、産業・就業構造の変化の中で多様化するニーズに、ハローワークも対応していくことが重要ではないか。
- ・ こうした中で、ハローワークがエッセンシャル分野をはじめとした求人者に選ばれる組織となるためにも、人材の公的需給調整機関としての役割を果たしつつ、生産性向上等も含む各種支援策等に関する知見を蓄積し、求人者が必要な支援策等を利用できるよう情報提供・助言を行う機能の強化も求められているのではないか。
- ・ また、生産性向上に向けた取組として DX 化や業務の切り出し等を推進していくことは、引いては、若者、高齢者、障害者、仕事と育児・介護・治療との両立が必要な者などの、多様な求職者等のニーズに合致した求人の確保にも資する可能性があるのではないか。
- ・ 一方で、生産性向上等に関しては、より専門性の高い関連機関に適切にリファーマすることが望ましいケースも多く想定されることも踏まえ、適切なリファーマのあり方等について検討していくこととしてはどうか。

(資料4：9～16 ページ)

③ 働き方改革推進支援センター

- ・ 働き方改革推進支援センターは、従前は、働き方改革関連法に係る労務管理等を中心とした相談支援等を行ってきたところであるが、(労働市場改革分科会とりまとめ等を踏まえ、今後、) よろず支援拠点等との相互連携を強化することにより、労務相談のみならず、経営課題の相談にも対応できる新たなネットワークを構築し、中小企業・小規模事業者に対して総合的な支援を実施していくことが期待されている。
- ・ このため、まずは、そうした支援を行う際の支援ツールや関連機関との連携について整理していくこととしてはどうか。

(資料3：3、5ページ)

④ 生産性向上人材育成支援センター

- ・ 生産性向上人材育成支援センターは、経営課題に応じた人材育成プランの策定から訓練までの一貫した伴走支援を提供している。一方で、ハローワークとの連携については、あまり意識されてこなかったのではないかと。このため、ハローワークからのリファラーのあり方等について整理することとしてはどうか。

⑤ よろず支援拠点

- ・ よろず支援拠点は、従前から、小規模事業者等からの売上拡大、経営改善、人手不足等の経営課題に関する相談等の支援を行ってきた経緯がある。一方で、ハローワークや働き方改革推進支援センター等の労働関係機関との連携については、これまでも一定の取組が行われてきたところであるものの、今後更なる連携の余地があるのではないかと。このため、関連機関等とのリファラーのあり方等について整理することとしてはどうか。

(4) アドバンスト・エッセンシャルワーカー (AEW) の概念整理や育成・確保に向けた方策の検討

① アドバンスト・エッセンシャルワーカーの概念整理

- ・ アドバンスト・エッセンシャルワーカー (AEW) の概念や育成策については、十分な知見が蓄積されていないことから、まずは、本事業の実施を通じて、好事例を収集することとしてはどうか。
- ・ その後、共通する要素等を見だし、その後、一定の類型化を模索することとしてはどうか。
- ・ AEWの類型化については、
 - ◆ 自らが知識と技術を使いこなして生産性向上をリードする「現場オペレーションワーカー」と、
 - ◆ 知識と技術を駆使して現場の作業プロセスを改善して組織全体の生産性向上を推進する「現場コーディネーションワーカー」の2種類に整理する考え方（令和8年4月3日第2回労働市場改革分科会・山田久委員提出資料）があることも参考としつつ、収集した事例の分析等を通じて、更なる精緻化等に努めることとしてはどうか。

② AEWの人材育成・確保に向けた方策の検討

- ・ AEWの育成・確保に向けては、①の類型化等を踏まえ、人材育成に向けた具体的なヒントを得ていくこととしてはどうか。

3. 議論の進め方（案）

（１）事例やヒアリング候補先の選定等

- 事例集に掲載する企業の取組例については、導入コストの大きな最新・大型機器の活用例だけではなく、中小・小規模事業者が参照できそうな事例が多く含められるように意識して整理を行うこととしてはどうか。
- また、事例集の作成に際して、支援施策の類型ごとにバランスよく事例を収集していくべきであり、ヒアリング候補先の選定にあたっても留意していくべきではないか。
特に、既存の事例集を踏まえると、「①省力化投資・設備導入」に比べ、「②経営改善関係」及び「③人材戦略」に関する事例の収集が十分ではない可能性があるため、関係各省の協力も得つつ、事例の収集に努めることとしてはどうか。
- 具体的なヒアリング先の決定の流れについて、今後、事務局において、検討会の下に設置するワーキンググループ（WG）を通じて関係省庁からの意見を聴取した上で、分野ごとに少なくとも１つのヒアリング候補先を選定の上、検討会構成員の意見も踏まえ、座長と相談の上で決定することとしてはどうか。

（２）各論の議論の進め方

- まずは、業種ごとの好事例を踏まえながら、業種ごとの特性を踏まえた事例集や支援ツール等の整理方針について、検討していくこととしてはどうか。
（参考資料（支援策）：21～30 ページ、32～42 ページ）
（資料４（事例）：32～64 ページ）
- この際、業種ごとに現時点で、特に気をつけて議論すべき論点はあるか。

◆WG①関係

- ・ 医療
- ・ 介護・障害福祉
- ・ 保育

◆WG②関係

- ・ 運輸（物流）
- ・ 建設
- ・ 宿泊・飲食

◆WG③関係

- ・卸売・小売
- ・製造
- ・警備

(3) その他

- その他、本検討会の開催に当たって、留意すべき事項等はないか。